

地質サイトカード

カードNo.	A-②-2	通しNo.	19	作成日	2024/7/19
サイト名	みせん 弥山のごえんゴウロ				
基本情報	エリア	島根半島 眺望サイト			
	区分	☒ 地質・地形	☐ 生態	☐ 文化	
	利用価値	☒ 科学	☒ 教育	☒ 観光・ツアー	
	所在地	出雲市大社町遙堪			
	アクセス	眺望場所 一畑電鉄の遙堪駅周辺 山陰道 斐川ICから約12km、約20分 JR出雲市駅から日御碕大社線(島根ワイナリー経由)約25分、遙堪下車 一畑電鉄 出雲市駅から大社方面、約20分遙堪駅下車			
	周辺施設	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場(台) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☐ 観光施設()			
	看板整備				
	留意点				
		位置情報	b-3		
保護・保全	法規制・関連団体等				
	保全メモ				
サイトの解説	みどころ	弥山山頂から東へ伸びる尾根の南斜面に形成された崖錐と、円く植生の欠如した景観。			
	地質・地形	ごえんゴウロのある場所は、弥山をつくっている流紋岩の巨大な岩脈群が崩落した、いわゆる山崩れによって形成されたものである。ごえんゴウロの「ごえん」の形と大きさは、国内でも極めてユニークな存在といえる。山崩れの広がり、海抜320mから150m、最大幅は約75mの楕円形。10kmも南東の斐川町の方からもみえる。斜面の勾配は35°。「ゴロゴロ」している石が、谷を埋めるように分布する。個々の石の大きさは約30－50cm程度で、角張っており、岩脈の形状を留めているものも多い。 このゴウロを作る石の量は、崩落地の深さを10mとすると、出雲ドームの8分の1ほどになる。山の高所でこれだけの量の山崩れを起こしたのは、弥山の麓から中腹にかけて広く分布する泥岩層が著しく侵食されたためとみられる。いま以上に急峻で、崖の上に突き出た流紋岩がいつきに崩落したと推測される。 「ごえん」の形の神秘さは、周囲の樹木やシダ植物を寄せ付けない環境にもある。周囲からもたらされる種子も多いはずであるが、不毛のままである。ゴウロの内部は入り組んだ大小の石で組まれ、種子は下の土壌まで到達できないのか。あるいはゴウロの下は地温も低く光が届かないためといったことが考えられている。			
	歴史・文化 生物・生態 等				
写真・図等					
参考文献	島根の地形・景観・奇岩				